

教育に関する事務の点検・評価報告書

(令和元年度事業)

令和2年8月

大仙市教育委員会

目 次

1	点検・評価の趣旨	1
2	点検評価の実施方法	1
3	教育委員会の活動に関する事務	2
	(1) 教育委員会の会議の開催状況	2
	(2) 教育長・委員の活動状況	4
	(3) 教育長・委員の研修状況	4
4	総合教育会議の開催状況	5
5	点検・評価の対象事業	6

No.	分 野	事 務・事業名	担当課等
1	学校教育	校舎等維持補修及び施設整備事業	教育総務課
2	学校教育	大曲中学校水泳プール改築事業	教育総務課
3	学校教育	学校生活支援事業	教育指導課
4	学校教育	だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業	教育指導課
5	生涯学習	学校・家庭・地域連携総合推進事業	生涯学習課
6	生涯学習	嶽友大学（高齢者教育事業）	神岡中央公民館
7	芸術・文化	西仙北芸術祭	西仙北中央公民館
8	芸術・文化	優秀映画鑑賞推進事業「優秀映画鑑賞会」	中仙公民館
9	生涯学習	仙人大学（高齢者向け講座）	協和公民館
10	生涯学習	南外地域女性の集い	南外公民館
11	生涯学習	放課後子ども教室推進事業 「おらだの体験学校」	仙北公民館
12	生涯学習	太田花いっぱい運動事業	太田公民館
13	芸術・文化	払田柵跡環境整備事業	文化財課
14	スポーツ	スポーツ合宿等推進交流事業	スポーツ振興課
15	生涯学習	だいせん読書の日事業	総合図書館
16	芸術・文化	大仙市音楽祭2019	総合市民会館
17	芸術・文化	花火伝統文化継承事業（企画展示）	花火伝統文化継承資料館

6	学識経験者の総評	28
---	----------	----

1 点検・評価の趣旨

大仙市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、教育委員会が行う教育事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとしました。

2 点検・評価の実施方法

(1) 点検・評価の対象とする事務

点検・評価の対象とする事務は、令和元年度の教育委員会の活動に関する事務のほか、大仙市総合計画、新しい時代の学校教育だいでせんビジョン、大仙市生涯学習推進計画又は大仙市スポーツ推進計画に基づく同年度に実施した事業のうち、17事業を選定し、点検・評価を行いました。

(2) 点検・評価の方法

点検・評価は、事務事業の点検・評価表により、担当課による自己評価を実施するとともに、有識者からの外部評価をいただきました。

(3) 外部評価していただいた有識者

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、秋田県社会教育アドバイザー 小笠原重夫氏、秋田大学教育文化学部非常勤講師 沢屋隆世氏の2氏から評価していただきました。

(4) 外部評価後の検証・実施

外部評価を踏まえ、事務事業を再検証し、できる限り今後の施策に反映していきます。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 教育委員会の活動に関する事務

(1) 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回開催する定例会と必要に応じて開催する臨時会があります。
令和元年度は、定例会のほか臨時会を3回開催し、合計15回開催しました。

開催期日 及び場所	議 案
H31. 4. 24 (定例会) 大曲図書館	議案第28号 奨学資金運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第29号 大仙市社会教育委員兼大仙市公民館運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第30号 公民館運営協力委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第31号 大仙市立図書館協議会委員の任命に関する臨時代理について 議案第32号 大仙市立図書館運営協力委員の任命に関する臨時代理について 議案第33号 大仙市就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定に関する臨時代理について 議案第34号 大仙市文化財の指定について
R1. 5. 20 (定例会) 大曲図書館	議案なし (報告案件のみ)
R1. 6. 19 (定例会) 大曲図書館	議案第35号 大曲武道館建設(建築)工事請負契約案に関する臨時代理について 議案第36号 令和元年度大仙市一般会計補正予算(第2号)案に関する臨時代理について 議案第37号 令和元年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算(第1号)案に関する臨時代理について 議案第38号 給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱に関する臨時代理について 議案第39号 (仮称)大綱交流館等整備事業建築工事請負契約案に関する臨時代理について 議案第40号 払田柵跡環境整備審議会委員の委嘱について 議案第41号 旧池田氏庭園保存整備審議会委員の委嘱について
R1. 7. 29 (定例会) 大曲図書館	議案第42号 大仙市招致外国青年任用規則の一部を改正する規則の制定について 議案第43号 大仙市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第44号 教育支援専門検査員の委嘱について 議案第45号 大仙市立小学校用教科用図書の採択について
R1. 8. 23 (定例会) 大曲図書館	議案第46号 大仙市立学校設置条例の一部を改正する条例案について 議案第47号 令和元年度大仙市一般会計補正予算(第4号)案について 議案第48号 教育に関する事務の点検・評価報告書案について
R1. 9. 27 (定例会) 大曲図書館	議案第49号 大仙市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
R1. 10. 7 (臨時会) 大曲図書館	議案第50号 大仙市教育委員会職員の懲戒処分について

R1. 10. 29 (定例会) 中仙公民館 清水分館	議案第51号 払田柵跡環境整備審議会委員の委嘱について
R1. 11. 20 (定例会) 大曲図書館	議案第52号 大仙市八乙女交流センターの指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第53号 大仙市民プール等の指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第54号 大仙市営八乙女球場及び大仙市八乙女運動公園テニスコートの指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第55号 太田新興緑地広場等の指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第56号 令和元年度大仙市一般会計補正予算(第8号)案に関する臨時代理について 議案第57号 大仙市文化財の指定について
R1. 12. 25 (定例会) 大曲図書館	議案なし (報告案件のみ)
R2. 1. 24 (定例会) 大曲図書館	議案なし (報告案件のみ)
R2. 2. 19 (定例会) 大曲図書館	議案第1号 令和元年度大仙市一般会計補正予算(第10号)案に関する臨時代理について 議案第2号 令和元年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算(第2号)案に関する臨時代理について 議案第3号 令和元年度大仙市一般会計補正予算(第11号)案に関する臨時代理について 議案第4号 令和元年度大仙市奨学資金特別会計補正予算(第1号)案に関する臨時代理について 議案第5号 令和2年度大仙市一般会計予算案に関する臨時代理について 議案第6号 令和2年度大仙市学校給食事業特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第7号 令和2年度大仙市奨学資金特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第8号 令和2年度大仙市スキー場事業特別会計予算案に関する臨時代理について
R2. 2. 27 (臨時会) 大曲図書館	議案第9号 県費負担教職員の人事の内申について
R2. 3. 12 (臨時会) 大曲図書館	議案第10号 大仙市教育委員会職員の処分について
R2. 3. 19 (定例会) 大曲図書館	議案第11号 大仙市会計年度任用職員制度の導入に伴う関係規則の整理に関する規則の制定について 議案第12号 大仙市奨学資金貸与条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

議案第13号	大仙市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
議案第14号	大仙市招致外国青年任用規則の制定について
議案第15号	大仙市招致外国青年人事評価規程の制定について
議案第16号	教育アドバイザーの任命について
議案第17号	教育アドバイザーの任命について
議案第18号	教育アドバイザーの任命について

※ 議案番号は、暦年による一連番号です。

※ 10月の定例会は、移動教育委員会として開催しました。

(2) 教育長・委員の活動状況

入学式	平成31年 4月 5日から 4月10日まで	小学校21校、中学校11校	全32校
公民館訪問	平成31年 4月12日から 4月15日まで	市内 8 公民館	
学校訪問	令和元年 6月25日から12月18日まで	小学校21校、中学校11校	全32校
卒業式	令和 2年 3月 7日から 3月16日まで	小学校21校、中学校11校	全32校

(3) 教育長・委員の研修状況

平成31年 4月18日・19日	第70回東北都市教育長協議会定期総会及び研修会	教育長が出席
令和元年 5月23日・24日	第71回全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会	教育長が出席
令和元年 7月 5日	令和元年度東北六縣市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会	教育長及び風登委員が出席
令和元年 8月22日	令和元年度全県市町村教育委員会教育長会議	教育長及び風登委員が出席
令和元年10月29日	令和元年度大仙市教育委員会委員研修視察	教育長、風登委員、鈴木委員及び工藤委員が参加
令和元年11月 1日	令和元年度秋田県市町村教育委員会連合会及び秋田県都市教育長協議会合同研修会	教育長、風登委員及び高見委員が出席
令和元年11月12日	令和元年度県南地区教育長会議	教育長が出席
令和元年11月18日	令和元年度大仙仙北美郷教育委員会連絡会	教育長、風登委員、工藤委員、中島委員及び高見委員が出席

4 総合教育会議の開催状況

総合教育会議とは、平成27年4月に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づき、市長と教育委員会を構成員として設置されるもので、市長と教育委員会が教育の課題やあるべき姿を共有し、相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としています。

令和2年2月5日、大曲庁舎において令和元年度第1回大仙市総合教育会議を開催しました。

この会議では、令和元年度の主な教育施策の概要と今後の教育施策について意見交換するとともに、市長から提案された今後の教育委員会機構の在り方についても意見交換を行っています。

【令和元年度第1回大仙市総合教育会議】

日時 令和2年2月5日（水） 午前9時30分

場所 大曲庁舎

協議

- (1) 令和元年度の主な教育施策の概要と今後の教育施策について
- (2) 今後の教育委員会機構の在り方について

事務事業の点検・評価表

	番号	1	分野	学校教育	担当課	教育総務課											
事業名	校舎等維持補修及び施設整備事業																
事業の目的	この事業は、学校施設の整備を図り、快適又は安全な教育環境を提供することを目的とする。																
事業の実施状況	事業費	426,314千円															
	【主な改修工事】 1 小学校(9校)施設空調設備設置工事・・・・・・・・・・265,832千円 2 太田中学校屋根改修工事・・・・・・・・・・41,398千円 3 太田東小学校高圧受電設備改修工事・・・・・・・・・・20,463千円 4 大曲西中学校高圧受電設備改修工事・・・・・・・・・・28,050千円 5 西仙北小学校非常階段改修工事・・・・・・・・・・6,966千円																
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: left;">【校舎等維持補修及び施設整備費の推移】</th> <th style="text-align: right;">(単位：千円)</th> </tr> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 25%;">平成29年度</th> <th style="width: 25%;">平成30年度</th> <th style="width: 35%;">令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">決算額</td> <td style="text-align: center;">345,795</td> <td style="text-align: center;">469,599</td> <td style="text-align: center;">426,314</td> </tr> </tbody> </table>						【校舎等維持補修及び施設整備費の推移】			(単位：千円)		平成29年度	平成30年度	令和元年度	決算額	345,795	469,599
【校舎等維持補修及び施設整備費の推移】			(単位：千円)														
	平成29年度	平成30年度	令和元年度														
決算額	345,795	469,599	426,314														
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった </div> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </div> </div> <p>学校施設の様々な改修工事を実施し、快適又は安全な教育環境を確保することができた。 特に、小学校9校にエアコンを設置し、児童の熱中症対策を講じることができた。残りの小・中学校についても、早期に設置したい。</p>																
課題等	建築後30年以上経過している校舎・屋内運動場が6割を超えていることから、今後、改修に多額の経費を要することが予想される。こうした状況を踏まえ、長寿命化計画を策定し、計画的に改修を行っていくことで改修費の縮減を図る必要がある。																
外部評価 有識者の 意見・評価	<p>○ 「長寿命化計画」に沿い、今後も計画的に校舎等の改修を進めていただきたい。 新型コロナウイルス対策として、児童生徒は今、マスクを付けて過ごしている。授業時数確保のため、夏休みが短縮される動きもある中、暑さ対策は重要で、普通教室へのエアコン設置は優先度が高い事業といえる。未設置の学校への早期設置を期待する。</p> <p>◇ 児童生徒が安全で安心な施設環境で学習をするためにも、老朽化が著しい校舎等から計画的に改修・整備することが必要である。まずは長寿命化計画の策定を進め、その計画を進めることで経費縮減も図られるものである。 今後の校舎の在り方も見据え、エアコン設置を中学校へも進めていただきたい。</p>																

<p>課 題 等</p>	<p>児童生徒数が減少傾向にある一方で、発達障がい等があるなど支援を要する児童生徒は増えている。また、発達の過程や学校・家庭等の環境の変化により、支援の必要性が高まるケースも増えており、対応する支援員の体制を整えていくことが課題である。</p>
<p>外部評価 有識者の 意見・評価</p>	<p>○ 本事業は、継続が必須な最重要事業といってもよい。 本市において、特別な支援を必要とする児童生徒は確実に増えており、支援員の配置は、今や学校経営に欠かすことのできないものとなっている。今後は、中学校への配置拡充も期待したい。 支援員の資質向上研修も、更なる充実深化を望む。</p> <p>◇ 児童生徒数が減少傾向にある中で、支援や配慮が必要とされる児童生徒は増えている現状を踏まえ、支援を受ける本人はもとより、周りの児童生徒も安心して学校で生活できる環境を支えてくれる支援員の役割は大変重要である。支援の状況を家族等への理解を進め、学校、医療機関や相談機関等が連携し、望ましい支援体制を構築していただきたい。そのためにもアドバイザーも必要である。</p>

事務事業の点検・評価表

	番号	4	分野	学校教育	担当課	教育指導課																			
事業名	だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業																								
事業の目的	<p>学校と地域の自主防災組織等の連携により、災害時の避難所運営について実践的な訓練を実施することにより、生徒の防災教育の充実に資するとともに、家庭及び地域の防災意識の向上に寄与する。また、本市中学校の特色の一つともなっている東日本大震災で被災された方々との交流活動が、児童生徒の防災意識を高める重要な取組であることから、その内容の充実を期して活動を支援していく。</p>																								
事業の実施状況	事業費	1,691千円																							
	<p>1 避難所開設訓練</p> <p>(1) 実施日 令和元年10月29日(火)</p> <p>(2) 場所 豊成中学校</p> <p>(3) 参加者 訓練実施校の生徒及び教職員、地域住民 中学生サミットメンバー、関係機関等</p> <p>(4) 主な活動 地震発生時の避難訓練及び避難所開設に関わる初期対応 (生徒避難、避難所開設及び運営、炊き出し等)</p> <p>2 被災地交流</p> <p>(1) 実施日 令和元年5月～11月の期間中、各校で実施</p> <p>(2) 場所 岩手県及び宮城県の被災地</p> <p>(3) 参加者 実施校の生徒及び教職員、地域住民、関係機関等</p> <p>(4) 主な活動 被災地域の中学生やその地域住民とのふれあい (グラウンドゴルフ大会、物産販売体験、新米贈呈等)</p> <p style="text-align: center;">【3か年の実施状況】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">年</th> <th style="width: 20%;">避難所開設実施校</th> <th style="width: 15%;">避難所開設参加者数(人)</th> <th style="width: 25%;">被災地交流実施校</th> <th style="width: 35%;">決算額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td style="text-align: center;">太田中</td> <td style="text-align: center;">320</td> <td>大曲中、平和中、南外中、太田中</td> <td style="text-align: right;">4,675</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td style="text-align: center;">大曲南中</td> <td style="text-align: center;">225</td> <td>大曲中、平和中、南外中、太田中</td> <td style="text-align: right;">3,002</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td style="text-align: center;">豊成中</td> <td style="text-align: center;">261</td> <td>平和中、南外中、太田中</td> <td style="text-align: right;">1,691</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H29被災地交流について、大曲中の実施に合わせ大曲中学区内の4小学校の代表児童も参加。また、太田中の実施に合わせ、太田地域内3小学校の6年生も参加。</p> <p>※H30被災地交流について、大曲中の実施に合わせ大曲中学区内の4小学校の代表児童も参加。また、太田中の実施に合わせ、太田地域の小学生及び地域住民も参加。</p>						年	避難所開設実施校	避難所開設参加者数(人)	被災地交流実施校	決算額(千円)	H29	太田中	320	大曲中、平和中、南外中、太田中	4,675	H30	大曲南中	225	大曲中、平和中、南外中、太田中	3,002	R1	豊成中	261	平和中、南外中、太田中
年	避難所開設実施校	避難所開設参加者数(人)	被災地交流実施校	決算額(千円)																					
H29	太田中	320	大曲中、平和中、南外中、太田中	4,675																					
H30	大曲南中	225	大曲中、平和中、南外中、太田中	3,002																					
R1	豊成中	261	平和中、南外中、太田中	1,691																					

<p>自己評価</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </p> <p> 本事業の実施により、生徒が実践的な訓練を体験することができ、充実した防災教育の機会となった。生徒がこの訓練を通して学んだことを家庭や地域と共有することで、地域における防災意識の向上を図る契機とすることができ、その効果は大きいと思われる。 </p>
<p>課題等</p>	<p> 防災意識が薄れないよう、引き続き、自らの生命は自ら守ることや、地域の一員としての自覚をもち、助け合うといった防災意識の向上に努めていくことが必要である。避難所開設訓練では地域の実態に即した避難所開設の在り方や、自主防災組織と連携した防災活動や被災地交流事業に関しては、期間や内容について検討する必要がある。 </p>
<p>外部評価 有識者の 意見・評価</p>	<p> <input type="radio"/> 本市中学校の被災地支援の素晴らしいところは、現地に何度も足を運び、現地の人たちの生活の変化に寄り添いながら、支援の内容を少しずつ変えているところである。このことは、被災地の学校と被災地以外の学校との交流のモデルケースになるのではないかと。震災の記憶を風化させないためにも、本事業を是非継続していただきたい。生徒には支援を続けていくことで、災害への備えを学び取ってほしい。 </p> <p> <input checked="" type="radio"/> 東日本大震災やその後の河川氾濫による被害もあり、防災意識の向上は常に図っていかなければならない。学校はもとより、それに関わる地域の意識啓発にもつながる大事な事業である。 </p>

<p>外部評価 有識者の 意見・評価</p>	<p>○ 「学校支援地域本部」は、本市において十分な定着が見られる。平成29年度からは、その発展形として「地域学校協働本部」がスタートしているので、本市もその形にシフトし、地域と学校との「協働活動」を更に推進する体制を構築していただきたい。</p> <p>地域と学校とのつなぎ役・橋渡し役を、地元の公民館も担っていることは、他市町村にはあまり見られない大仙市ならではの強みである。地域と学校の連携・協働の実務を公民館が担うことは、今後更なる充実を期待したい。</p> <p>◇ 学校と地域・家庭が連携して総掛かりで子供を育む体制を整備しながら、地域の活性化を図る重要な施策である。人口減少や少子高齢化が急激に進む本市にとっては、学校と地域等が連携協力して、推進員が役割を果たして、人材ネットワークを形成して、つながることは子供の社会性を育むことにもなり、明日を支える人材育成そのものといって過言ではない。</p> <p>国・県の補助事業であることから、積極的に補助を活用して事業を拡充していただきたい。</p>
--------------------------------	---

事務事業の点検・評価表

	番号	6	分野	生涯学習	担当課	神岡中央公民館												
事業名	嶽友大学（高齢者教育事業）																	
事業の目的	高齢者に生涯学習活動の機会を提供し、受講者相互の交流を図りながら生涯学習の推進と高齢者の生きがいがづくりや学習意欲の向上を図ることを目的とする。																	
事業の実施状況	事業費					369千円												
事業の 実施状況	<p>高齢者を対象に5月から3月までそれぞれ年間12回ずつ開催している。講座の内訳は、水墨画・民謡（唄）・民謡（踊り）・書道・俳句・園芸・ヨガの7学科である。ヨガは、火曜日開講であるが、そのほかの学科は木曜日と金曜日に分け午前で開催し、複数学科の受講が可能となっている。また、民謡（唄）は令和元年度途中から開設され、民謡愛好者の要望に応えたものである。</p> <p>学習を通して知識や技術の向上が図られるばかりでなく、仲間との語りを通して生きがいがづくりに役立っていることから、長年にわたり学習を継続されている方も多く、これらの学習成果の発表の機会として、例年10月に開催される地域文化祭も学習者の楽しみの一つになっている。</p> <p>嶽友大学は、昭和57年に開講され30年以上の歴史のある高齢者講座で、最盛期には8学科で100人以上が受講していたが、受講者の高齢化、固定化が進んでいる。</p> <p>【過去3年の受講者数の推移】 ※複数学科の受講者は各年度とも3人ずつ</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">◎平成29年度</td> <td style="width: 20%;">6学科</td> <td style="width: 20%;">40人</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>◎平成30年度</td> <td>6学科</td> <td>43人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎令和元年度</td> <td>7学科</td> <td>49人</td> <td></td> </tr> </table>						◎平成29年度	6学科	40人		◎平成30年度	6学科	43人		◎令和元年度	7学科	49人	
◎平成29年度	6学科	40人																
◎平成30年度	6学科	43人																
◎令和元年度	7学科	49人																
自己評価	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </td> </tr> </table> <p>・自己の知識や教養を高めるための学習活動の場であるとともに、同好の仲間との交流の場として高齢者の生涯学習や生きがいがづくりに大いに役立っている。</p> <p>・学習活動の成果を地域に生かす取組として公共施設の樹木剪定や民謡大会の運営協力など地域づくりにも貢献している。</p> <p>・受講者の高齢化、固定化が進んでいるものの、ヨガなど健康志向の新しい分野の講座の開設などにより新規の申込者も若干みられるようになった。</p>						<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった	<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった										
<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった	<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった																	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の確保に向けた取組として、地域を越えた事業PRによる学習情報の提供や高齢者の学習ニーズの把握に努めていく。 ・近隣公民館相互の情報交換に努め、類似事業の連携や共催など将来的な方向について検討を重ねていく。 																	
外部評価 有識者の 意見・評価	<p>○ 歴史ある「嶽友大学」は、今後も是非継続していただきたい。</p> <p>「高齢者大学」受講者の高齢化・固定化は、県内の他市町村でも見られる課題である。今後は、地元の小・中学校との合同講座（移動講座）を実施したり、市内他地域の高齢者大学との連携講座を開催したりすることも視野に入れていただきたい。</p> <p>◇ 高齢者の生きがいや交流の場づくりにもつながっている事業である。参加者を増やし、更に学習者の意欲を喚起するためにも、今後は学んだ成果を地域や子供たちに一層生かす方向で進めていただきたい。</p>																	

事務事業の点検・評価表

	番号	8	分野	芸術・文化	担当課	中仙公民館
事業名	優秀映画鑑賞推進事業「優秀映画鑑賞会」					
事業の目的	<p>往年の優れた名作映画を鑑賞する機会が減少している中、映像芸術の原点となる映画の素晴らしさに触れる機会を提供することにより、映画文化に対する意識を高め、映画保存の重要性への理解を深めるとともに、地域における上映活動を通じて、文化活動の活性化、コミュニティ活動の充実を図ることを目的とする。</p>					
事業の実施状況	事業費	251千円				
事業の実施状況	<p>・ 日 時：令和2年1月25日（土） 開場12時30分 開演13時00分 26日（日） 開場12時00分 開演12時30分</p> <p>・ 場 所：中仙市民会館</p> <p>・ 入場者：二日間合計179人（25日・80人、26日：99人）</p> <p>・ 入場料：一日券500円、二日通し券800円（高校生以下無料）</p> <p>・ 事業費：25万153円（入場料収入：8万3,300円）</p> <p>・ 内 容：国立映画アーカイブが所蔵する名作映画（35mmフィルム）の上映 日本映画の刷新を試み続けた市川崑。小説の映画化として評価の高い作品に、国民的議論を巻き起こした記録映画を加えた4作品を上映 1/25 ①野火（1959年）、②ぼんち（1960年） 1/26 ③東京オリンピック（1965年）、④おはん（1984年）</p> <p>※本事業の実施に要する経費のうち、会場使用料や付帯設備使用料、広報経費（チラシ・ポスター作成）、業務委託料（映写技師オペレート）等の経費は主催者（会館側）の負担とし、映画フィルムの提供や輸送費、上映時に配付する「鑑賞の手引き」（上映パンフレット）等は国立映画アーカイブが負担している。</p> <p>【過去の事業実績】</p> <p>・ 平成29年度 期 日：平成30年1月27日（土）・28日（日） 入場者：二日間合計182人（27日・85人、28日・97人） 事業費：20万8,456円（入場料収入：8万1,400円） 作 品：1/27 ①不知火検校（1960年）、②次郎長三国志（1963年） 1/28 ③網走番外地（1965年）、④人生劇場 飛車角と吉良常（1968年）</p> <p>・ 平成30年度 期 日：平成31年2月2日（土）・3日（日） 入場者：二日間合計178人（2日・64人、3日・114人） 事業費：24万3,449円（入場料収入：8万2,100円） 作 品：2/2 ①張込み（1958年）、②悪い奴ほどよく眠る（1960年） 2/3 ③黒い画集 あるサラリーマンの証言（1960年）、 ④白い巨塔（1966年）</p>					

<p>自己評価</p>	<p> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は平成16年度から開催しており、令和元年度で15回目（平成19年度を除く。）を数える当館の定番事業となっている。毎回上映を心待ちにしている市内外のフィルム映画愛好家の方や、鑑賞のためだけに県外からの訪れる来場者もあり、他地域ではあまり例をみない貴重な機会を提供できていると感じている。 ・鑑賞者アンケートでは「当時の様々な思い出がよみがえってきて、感動した」「当時と同じ映画をまた鑑賞できる喜び」「数十年たっても名作は色褪せない」「すごく心に響いた、機会があったらまた鑑賞したい」等の感想が多数寄せられ、毎回好評を得ている。 ・現在では稀少な35mmフィルム映写機を当館で所有していることから、主催者が負担する経費も少ない優良な事業であるため、今後も設備の維持管理を実施しながら継続していきたいと考えている。
<p>課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上映する作品の年代の関係で、鑑賞者の大半が60歳以上になってしまうことから、幅広い年齢層の方々に良い映画文化に触れてもらうため、今後は周知の方法を工夫していくことで、興味や関心を持ってもらうきっかけを増やしていきたい。また、そのためにも近年の優秀作品を上映していくことも検討していく必要がある。 ・設備の老朽化が懸念される。当館で所有している35mmフィルム映写機も、2002年（平成14年）製であるため、いくつか故障している箇所が見受けられる。今後も継続して事業を実施していくためには、映写機を含む設備の維持管理費の増加が課題になってくる。
<p>外部評価 有識者の 意見・評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 35mmフィルム映写機による往年の名作上演は、マニアにとっては垂涎のものだろう。今後、SNSを利用するなど広報の仕方を工夫して、是非県外や県内各市町村のフィルム映画マニアを呼びこんでみてはどうだろうか。やり方によっては“聖地”となる可能性を秘めたオンリーワン事業だと思う。 ◇ せっかくの貴重な映像上映機会であるので、高齢者、マニアのみだけでなく、地元の幅広い年代層を巻き込んだ形で開催してほしい。 中仙地域の地元の強みをうまく工夫してみたい。例えば、黒沢明監督とゆかりのある作品等や、上映する作品についての懇談会など、話し合いの場を設けるきっかけづくりをしていくのもよいのではないかと思う。

事務事業の点検・評価表

	番号	9	分野	生涯学習	担当課	協和公民館							
事業名	仙人大学（高齢者向け講座）												
事業の目的	生涯学習の精神にのっとり、学習を通じて自己を高めるとともに、地域社会の文化の発展に寄与することを目的としている。												
事業の実施状況	事業費			65千円									
	<p>仙人大学は、大仙市協和地域に在住する満60歳以上の方を対象とし、郷土研究学部、園芸学部、健康学部、文学部、美術学部、音楽学部、情報学部の7学部で構成されている。</p> <p>大学の運営方針は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生きがいのある生活を送るための楽しい学習をする。学んだことを社会や地域に生かすことができるよう元気に豊かに学習する。 ② 自主的な学習を進める。みんなが先生、みんなが学習者、共に学ぶ仲間をふやそう。 ③ 学習会に公開講座を加え、仙人大学生以外にも学習の機会を提供する。 <p>以上の三つを方針としている。</p> <p>各学部の学習や行事の計画は学生が自主的に行い、小学校と連携して郷土を愛し郷土を創る学習会を実施している。</p>												
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">年度</th> <th style="width: 20%;">平成29年度</th> <th style="width: 20%;">平成30年度</th> <th style="width: 20%;">令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生数</td> <td style="text-align: center;">65人</td> <td style="text-align: center;">72人</td> <td style="text-align: center;">65人</td> </tr> </tbody> </table>						年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	学生数	65人	72人
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度										
学生数	65人	72人	65人										
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった </div> <div style="width: 45%;"> <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </div> </div> <p>学生の高齢化に伴い、自動車運転免許の返納や交通手段に限りがあることから、学生が減少傾向にあるものの、各学部が活発に活動をしていて、学習内容についても自主的に選定し、実施している。</p>												
課題等	令和2年度は、全体で65人の学生で運営しているが、学部によっては数人のところもあり、近隣の公民館と連携を密にし、類似する団体が合同で学習できる環境づくりが必要となる。												
外部評価 有識者の 意見・評価	<p>○ 「仙人大学」が、地元小学校と連携ながら「郷土を愛し、郷土を創る学習会」を実施していることには、大いに好感がもてる。学校と公民館の連携・協働のモデルケースとして、今後、市内の他地域にも広がっていくことを期待したい。</p> <p>◇ 高齢者の生きがいや交流の場づくりにもつながっている事業である。参加者を増やし、更に学習者の意欲を喚起するためにも、今後は学んだ成果を一層地域や子供たちに生かす方向で進めていただきたい。</p>												

事務事業の点検・評価表

	番号	12	分野	生涯学習	担当課	太田公民館
事業名	太田花いっぱい運動事業					
事業の目的	<p>花は人々の心に潤いと安らぎを与え、花を育てることにより優しさと思いやりの心も育てていく。地域や学校、団体等による花づくり活動を通して、地域コミュニティの活性化や子供たちの健やかな心の成長につながる事業に取り組み、元気な地域づくりと多世代交流の促進を図ることを目的としている。</p>					
事業の実施状況	事業費	1,192千円				
	<p>1 地域花だん活動支援 太田地域住民と子ども会、太田中学校生徒による地域花だんの植栽。夏休みには子ども会・中学生が交替で花の水やりや地域住民が花だんの草取りなどを実施。地域の環境を整える支援事業（花苗の配布）。</p>					
	<p>2 太田地域花いっぱいコンクールの実施 昭和63年から実施。毎年8月に、太田地域の家庭・学校・団体等の花だんコンクールを開催。審査員が町内を巡回し審査を実施。10月に表彰式を実施（賞状と副賞を贈呈）。 ・申込件数 H29 100件、H30 93件、R 1 92件</p>					
	<p>3 全県花だんコンクール応募への支援 全県花だんコンクール応募の支援(昭和46年から)。9月の現地審査では、審査箇所日程表作成及び案内を実施。表彰式10月。 ・申込件数 H29 12件、H30 12件、R 1 10件</p>					
	<p>4 太田花だんフェアの開催（おおた花の会との共催） 平成5年から始めている事業。8月末から9月初めにかけて太田中学校前庭を会場に、団体や個人で丹精込めて育てた花のプランターや鉢植えを持ち寄り、花だんフェアを開催。開催期間の最初の土・日にはイベントとして、小・中学生によるマーチングや吹奏楽演奏会、寄せ植え体験講習、学校・個人の花だんを巡るお花見バスを運行。 ・プランター出品件数 H29 16件、H30 19件、R 1 17件</p>					
	<p>5 水仙ロード設置活動（球根植え） 昭和36年秋田国体を契機に県の花いっぱい運動の会が提唱した花いっぱい運動を、太田地域では昭和39年の秋に子ども会が土地改良で整備された道路脇に水仙を植えたのが始まり。 太田公民館や太田支所が中心となり地域内外の方々に水仙の球根を提供してくれるよう呼びかけ、11月におおた花の会、地域の方々の協力を得て道路脇に水仙の球根を植える事業。</p>					
	<p>6 太田シンボル花だん・花の看板の設置 太田地域に入る道路付近に花のまちをイメージする看板の設置（4か所）。中心部にシンボル花だん（1か所）を設置し、「花のまち太田」をPR。</p>					
	<p>7 実技研修会 おおた花の会が中心となり、花育活動を強化するために6月に研修会を実施（モミガラ培地等）。</p>					

事務事業の点検・評価表

	番号	14	分野	スポーツ	担当課	スポーツ振興課
事業名	スポーツ合宿等推進交流事業					
事業の目的	スポーツ施設・宿泊施設を利用して行うスポーツ合宿、公式試合、交流試合等の実施を誘致・推進することで、スポーツ少年団や中学・高校の競技者等に刺激を与え、競技力の向上が期待できることと併せ、市民が競技スポーツへの関心を高めるとともに、スポーツを活用したまちづくりやにぎわいの創出を図り、地域の活性化に資することを目的とする。					
事業の実施状況	事業費	1,100千円				
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> おおむね達成した </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった </div> <p>令和元年度に市内で実施されたスポーツ合宿の総数は、26団体（種目別：硬式野球14、準硬式野球1、軟式野球8、テニス2、応援部1）で、総人数1,050人、市内宿泊施設への宿泊延べ人数4,647人、宿泊費の総額は約2,901万9千円となっている。</p> <p>新規の団体数が6団体、リピート団体が20団体となっているが、リピートの回数が5回以上の団体が10団体と半数を占める結果となっている。要因としては、団体側とスポーツ施設や宿泊施設など市の関係機関との良好な関係が構築されていることに加え、施設使用料を市が全額負担、市内移動の際に交通手段を市と関係機関で負担、緊急時用レンタカーの配備、入湯税減免など、痒いところに手が届くサービスの提供であると考えられる。更には、首都圏からの交通費・宿泊費と最低限の活動用具を準備するだけで合宿が可能となる環境が整備されていることも魅力の一つと思われる。</p>					
課題等	スポーツ合宿の新規団体誘致は、立地・交通条件、交流戦（対戦チーム）のセッティング等、競技環境の整備や宿泊施設以外の条件を整えることが課題となるが、利用団体の要望にきめ細かな配慮を徹底し、より一層の団体誘致に努めたい。					
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 参加者数、参加団体数ともに、この10年間で大幅に増えている。交流人口を増やし地域の活性化を図る目的は、十分達成されていると思う。経済波及効果もかなり大きいものと思われる。</p> <p>本事業は、地域の結束や誇りを高める非経済的な効果も期待される。今後更に拡充していただきたい事業である。</p> <p>◇ スポーツ合宿誘致では、リピーター率を上げる工夫がされている。利用団体へのアンケートや意見等を分析し、更なる誘致拡充を図っていただきたい。</p> <p>市民との交流（大仙市の人の魅力）等が、リピーターへと大きい成果があると思われる。</p>					

事務事業の点検・評価表

	番号	16	分野	芸術・文化	担当課	総合市民会館								
事業名	大仙市音楽祭2019													
事業の目的	「音楽のまち大仙」として、市民により身近なものとするため、「ひとづくり、きずなづくり、まちづくり」をコンセプトとした市民参加型音楽祭を開催して、音楽に触れ合うことのできる機会を提供する。													
事業の実施状況	事業費			4,503千円										
	1 開催日：令和元年11月9日（土）・10日（日）・12月8日（日） 2 主催：大仙市・大仙市音楽祭実行委員会 3 共催：横濱音泉倶楽部・FMはなび 4 会場：大曲市民会館大ホール・小ホール・大曲中学校													
	平成29年度		平成30年度			令和元年度								
	NO	日付	会場	公演名	入場者数	NO	日付	会場	公演名	入場者数	NO	日付	会場	公演名
1	11/5	大曲市民会館	仙台フィル 一般向コンサート	520	1	11/10	大曲市民会館	山形交響楽団 一般向コンサート	284	1	11/9	大曲市民会館	横濱音泉倶楽部 一般向コンサート	263
2	11/3	大曲市民会館	楽器体験コーナー・ 0歳からのオーケストラ	472	2	11/11	大曲市民会館	楽器体験コーナー・ 0歳からのオーケストラ	518	2	11/10	大曲市民会館	楽器体験コーナー・ 0歳からのコンサート	546
3	11/3	大曲高校	楽器クリニック	77	3	11/11	大曲中学校	楽器クリニック	152	3	11/10	大曲中学校	楽器クリニック	106
4	11/4	大曲市民会館	曲中ミニコンサート	216	4	11/10	大曲市民会館	企画公演① 市内小中高7団体	486	4	11/9	大曲市民会館	企画公演① 市内小中学校6団体	393
5	11/5	中央公民館	地元吹奏楽部4団体 ミニステージ	296	5	11/10	中央公民館	企画公演② ソロフェスタ入賞者等	137	5	11/9	中央公民館	企画公演② ソロフェスタ入賞者等	103
6	11/3	大曲市民会館	ホールサウンドツ アー	28	6	11/11	大曲市民会館	企画公演③ 地元吹奏楽団体	213	6	11/10	中央公民館	企画公演③ 西根小・羽川ストリングス	258
7	11/3	中央公民館	薦バレエミニステ ージ	160						7	12/8	大曲市民会館	大いなる秋田 大演奏会	468
8	11/4	大曲市民会館	仙台フィル 市内全中学生	1,963										
				3,732					1,790					2,137
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった													
	3年目となる令和元年度は、「みんなでつくる」「みんなで楽しむ」「みんなの音楽祭」をテーマに、ジャズのビックバンド「横濱音泉倶楽部」を中心とした演奏会と、市内小中学生及び地元団体とのコラボ等の企画を組み入れた内容であった。中でも「楽器体験コーナー」・「0歳からのオーケストラ」は、前年同様、幼児・小学生及びその保護者に大変好評であった。また、プロの指導を直接受ける「横濱音泉倶楽部クリニック」は、中高生が積極的に参加し、貴重な体験となった。多くのボランティアの協力があり、出演団体と来場者との一体感のある演奏会となり、テーマどおり広く市民が関わる音楽祭となった。													
課題等	市民満足度の高い「大仙市音楽祭」に向けて、音楽祭実行委員会が主体となって、市民のニーズを積極的に取り入れ、企画内容の充実を図ることが課題である。													
外部評価 有識者の 意見・評価	○ プロの指導を直接受ける「クリニック」の実施は、地元の小中高生にとっても大きな刺激になるだろう。幼少期の子供たちに楽器を体験させる企画も見事だ。実行委員会には、今後も斬新なアイデアを企画してほしい。 音楽の街を強く打ち出すため、幅広い世代向けに開催する市民参加型の催しとして、本事業は今後も継続が望まれる。 ◇ 幅広い年代層を対象とした音楽祭はなかなか企画内容が難しいと思われる。その中では、0歳からのコンサートは、親子が多数参加し、リラックスして音楽に親しむ様子が見られた。 まだ、3年目であり、今後は企業や事業所、学校、福祉施設等からも協力をいただき、市民が幅広く音楽に親しむ機会を創出してくれればありがたい。													

学識経験者の総評

小笠原重夫（秋田県社会教育アドバイザー）

仕事柄、県南部の各市町村の事業等に触れる機会が多いが、率直に言って、大仙市教育委員会は「とても頑張っている！」という印象が強い。これは、前年と変わらない印象である。

人口減社会が到来し地方財政が逼迫する中、予算の縮減や人員の削減に留まらず、講座受講者の高齢化・固定化、芸術文化協会等団体の解散などは、今やどの市町村にも見られる課題である。

しかし、大仙市教育委員会の各課・各機関の事業を点検すると、そのような課題を抱えつつも関係者の必死の努力・工夫によって、相応の効果を上げていることが十分に見て取れる。

今回は、各課の頑張りはもちろんだが、地域公民館や図書館、市民会館、花火伝統文化継承資料館といった各機関の頑張りが目を引いた。個人的には、社会教育施設と位置づけられる公民館が、大仙市の場合まだまだ元気であることを、とてもうれしく思う。

公民館の活動目標は、「地域ぐるみで、ひとづくり、ものづくり、まちづくりを推進すること」にある。公民館には、体験や実践を重視する特色を生かしながら、地域の教育力の再編・強化やまちづくりを推進する運動体として、引き続き頑張っていたきたい。

以下は、既に各課・各機関において既に十分取り組まれていることであるが、今後も教育行政の役割として留意していただきたい点である。

- 1 地域に関する広く深い情報提供
- 2 地域団体のネットワークづくり
- 3 地域活動への支援・アドバイス
- 4 地域づくりの担い手育成、地域団体のリーダー養成

この度の新型コロナウイルス禍では、市民サービスの重要性をあらためて認識させられることとなった。大仙市には課題も少なくないが、大仙市教育委員会の各課・各機関には、それを乗り越える発想と活力で、更なる市民サービスの充実に努めていただきたい。

沢屋隆世（秋田大学教育文化学部非常勤講師）

人口減少や少子高齢化が進み、地域の絆が薄れてきている状況の中、今こそ地域社会のための教育が求められており、地域の課題等に主体的に関わり自らの力で社会を創り出す人材の育成が教育委員会や学校、社会教育機関等の役割となっている。

その意味では、教育環境の整備も含め、様々な取組が幅広く行われており、単にイベントで終わることなく、交流や活用まで広げ人材の育成へと繋げている事業が多く見られた。

また、大仙市教育委員会職員の皆様が試行錯誤して、市の財源に頼るだけでなく、国・県の補助金や交付金を活用しながら、教育環境の整備や教育課題、地域課題へアプローチを事業等として取り入れながら工夫されている。公民館の事業の中には、是非とも大仙市全てに広げていただきたい事業もあった。

今後も、アンテナを高くしながら、国・県の交付金や補助事業をうまく活用し、市の財源を工夫しながら市民への教育サービスを拡充することは重要な観点である。

この後は更に、教育行政、学校や他の機関、団体等が連携して、明日の大仙を推進する担い手の育成に、一層力を注いでいただきたい。